

大幅に騒音低減

G X電動建機を現場導入

NIPPPO

NIPPPOは茨城県取手市で施工する「R5国道6号相野谷川橋改良舗装工事」（発注者＝国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所）の現場に、同省認定のGX建機を含む三つの電動建機Ⅱ写真（報道発表資料から）Ⅱを導入した。対象は電動バックホウと電動ランマー、電動プレート。いずれもエンジン搭載機と同等のパワーがあり、騒音



も大幅に低減する。特に夜間交通を規制している同現場の夜間工事で効果を発現している。

G X建機として認定された電動バックホウは、二酸化炭素(CO₂)排出を抑制し騒音も大幅に低減する。夜間工事の騒音を防止するだけでなく、作業員同士の会話も通常の声量で行える。排ガスが発生せず、屋内作業の行う場合には排煙設備が不要となる。

電動ランマーと電動プレートはスイッチを1回押すだけで運転でき、エンジン搭載機に比べスムーズに施工を始められる。施工待機時の騒音もないため騒音対策にも有効。充電は家庭用の入力電圧100Vの電源で対応可能で、特別な設備を必要としない。

NIPPPOはカーボンニ

ュートラル(CN)に貢献するため、同省の「道路分野の脱炭素化政策集Ver1・0」に基づき、施工現場にGX認定建機を導入し充電方法などの課題を克服しながら環境負荷低減や夜間工事での有効性を評価している。

NIPPPO

夜間規制工事にGX建機

環境負荷低減、騒音対策に有効

NIPPPOは、「R5国道6号相野谷川橋改良舗装工事」(発注者「国土交通省常陸河川国道事務所」)の夜間交通規制工事で、GX(グリーン)

ランスフォーメーション)認定建機を含む電動建機を導入した。国交省が公表する道路分野の脱炭素化政策集に従って施工現場にGX認定建機を導入し、充電方法といった課題を解消しながら、環境負荷の低減や夜間工事での有効性を評価し、カーボンニュートラルの実現に貢献していきたい考え。

今回、GX認定建機である電動バックホウ、電動ランマ

ー、電動プレートを導入した。電動バックホウは、エンジン搭載機と同等のパワーを持ち、CO₂排出を抑えられるほか、騒音レベルが低い。そのため、夜間工事での近隣への騒音防止に役立つ。作業員同士は通常の声量で会話でき、円滑な意思疎通が可能だ。排ガスが発生しないため、屋内作業でも排煙設備が不要になる。

電動ランマーと電動プレ



施工現場で使われるGX建機

トも、エンジン搭載機と同等のパワーを持つ。スイッチを押すだけで運転できるため、エンジン搭載機に比べてスムーズに施工を始められる。施工待機時の騒音がなく、夜間工事などの騒音対策にも有効だ。家庭用の入力電圧100Vの電源

で充電可能であり、特別な設備を必要としないメリットもある。